

安全上のお願い

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を示すために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

警告

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因となります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
- レンジフードの取り付けは販売店にご相談ください
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因となります
詳しくは、所轄の消防署にお問い合わせください
- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因となります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因となります
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因となります

注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因となります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因となります
- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口(給気口)に十分な給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起すおそれがあります
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

取り付け上のおお願い

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用および配線接続等】
 - ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
- 流通業者(販売店)を通じて組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。捕集性能が低下します。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm³/h 程度の空気を取入を設けてください。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの適宜抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気性能をいじめるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けてください。
なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下部が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用座付ねじが確実に届くことを確認してください。本体の取付用座付ねじは 45mm の長さのものと同梱されており、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボードの厚さを確認し、取付用座付ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材料を使用してください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因となります。
- 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集できませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 寒い地域ではダクトが結露し、レンジフード内に結露水が流れる場合がありますので、不燃処理された断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下向き配管を付けてください(目安:勾配 1/100 ~ 1/50 程度)。雨水の浸入や結露水の逆流の原因となります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。
レンジフードへの通電が遮断されますと、お手入れ時期的な表示を正しくお知らせできなくなります。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。
塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。
- 風量おまかせ運転(風量自動切替)機能を正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず現場設定をおこなってください。

取り付け前の調査と準備

警告

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因となります
詳しくは、所轄の消防署にお問い合わせください
- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因となります
- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラス網など)と接触しないよう取り付けすること
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因となります

注意

- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因となります
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

- 取付面の強度確認
製品を製作する強さが必要です。
製品質量 26.5kg
■板張りの場合(取付面は必ず不燃処理をおこなってください)
●板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板(レンジフード)を取り付けてください。
●板厚が 20mm 以上の場合には補強板の必要はありません。
- 別売部品の準備
必要に応じて別売部品の準備が事前に必要です。
- 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品前面の下端まで 80cm 以上です。
※火災予防条例では、グリッドフィルター(デイスフ)の下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。
- 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。(交流・単相 100V)のコンセントは、JIS C 8303 2 極接地付差込接続器 15A 125V をご使用ください。

各部のなまえ

カラーセンサー、電源プラグ、本体、整流板センサー、スイッチ、温度センサー、リモコン・運動信号受信部、照明、フード、モーター(ディスク用)、ふきき板、ディスク、オイルガード、整流板、ヘルムマス、ファン、ヘルムマス取付用ねじ(鋼板用)、モーター

製品寸法図

(単位: mm)

※1. 排気方向は上方・後方です。(後方排気の場合は別売の L 形ダクトを使用)
※2. ダクトカバーは型名によって寸法が異なります。(ダクトカバー寸法は別紙参照)
※後方排気の場合、製品高さ 630mm 以上必要です。さらに電線用シャッターを使用する場合は製品高さ 650mm 以上必要となります。
※3. ダクトカバー型名の「*」には色コードが入ります。

運動線詳細図
排気口: 運動シャッター用コネクター (HDS-150 用)
ダクトカバー: 角形金取付穴位置
本体取付位置

だるま穴(本体取付穴)詳細
φ17
φ10
φ9.5
φ9.2
φ6.7
φ6.5
φ6.3
φ6.1
φ5.9
φ5.7
φ5.5
φ5.3
φ5.1
φ4.9
φ4.7
φ4.5
φ4.3
φ4.1
φ3.9
φ3.7
φ3.5
φ3.3
φ3.1
φ2.9
φ2.7
φ2.5
φ2.3
φ2.1
φ1.9
φ1.7
φ1.5
φ1.3
φ1.1
φ0.9
φ0.7
φ0.5
φ0.3
φ0.1

取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

付属品を確認します。
梱包箱から排気口、ねじ等の付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。

● 保証用のクッション材と固定用テープはキズ、破損防止のため、「7. 整流板の取り付け」まではずさないでください。(図 1-1)

● 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

● 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

2. 排気方向の決定

警告

- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因となります
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの本木の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けすること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因となります
詳しくは、所轄の消防署にお問い合わせください

注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因となります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因となります

- 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者(法的有資格者)へ壁穴の開口を依頼してください。
- また、コンセントの位置を確認してください。(「6. 電気配線」図 6-1 参照)
- φ150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上ります。(コンクリート、タイル、土壁の場合)(図 2-1)

3. 排気用部品の準備

※「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意してください。

■ 上方排気の場合(図 3-1)

- 排気口に付属品のソフトテープを貼ります。
- 本体に付いている取付ねじ 2 本をはずし、付属品の排気口を差込部に差し込み、取付ねじを取り付けます。
※取付方向は右図を参照してください。

■ 後方排気の場合(別売の L 形ダクトを使用する場合)

- 排気口に付属品のソフトテープを貼ります。
- 本体に付いている取付ねじ 2 本をはずし、付属品の排気口を差込部に差し込み、取付ねじを取り付けます。
※取付方向は右図を参照してください。

4. 本体の取り付け

注意

- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

● レンジフードの前および左右方向の水平を確実にしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油)が各部のすきまから調理面に滴下することがあります。

● キッチンパネルの上端部をレンジフード下部壁面に入れて込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込む部材は不燃性のものを使用してください。

- だるま穴用座付ねじをねじ込みます。(図 4-1)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置(左右各 1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)を壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。
- 本体取付ねじを取り付けます。(図 4-2)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付ねじの取付位置に付属品の座付ねじ(φ5.1×45) 2 本で本体取付ねじを固定します。

4. 本体の取り付け

注意

- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

● レンジフードの前および左右方向の水平を確実にしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油)が各部のすきまから調理面に滴下することがあります。

● キッチンパネルの上端部をレンジフード下部壁面に入れて込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込む部材は不燃性のものを使用してください。

- だるま穴用座付ねじをねじ込みます。(図 4-1)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置(左右各 1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)を壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。
- 本体取付ねじを取り付けます。(図 4-2)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付ねじの取付位置に付属品の座付ねじ(φ5.1×45) 2 本で本体取付ねじを固定します。

4. 本体の取り付け

注意

- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

● レンジフードの前および左右方向の水平を確実にしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油)が各部のすきまから調理面に滴下することがあります。

● キッチンパネルの上端部をレンジフード下部壁面に入れて込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込む部材は不燃性のものを使用してください。

- だるま穴用座付ねじをねじ込みます。(図 4-1)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置(左右各 1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)を壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。
- 本体取付ねじを取り付けます。(図 4-2)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付ねじの取付位置に付属品の座付ねじ(φ5.1×45) 2 本で本体取付ねじを固定します。

4. 本体の取り付け

注意

- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

● レンジフードの前および左右方向の水平を確実にしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油)が各部のすきまから調理面に滴下することがあります。

● キッチンパネルの上端部をレンジフード下部壁面に入れて込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込む部材は不燃性のものを使用してください。

- だるま穴用座付ねじをねじ込みます。(図 4-1)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置(左右各 1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)を壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。
- 本体取付ねじを取り付けます。(図 4-2)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付ねじの取付位置に付属品の座付ねじ(φ5.1×45) 2 本で本体取付ねじを固定します。

5. ダクトと排気用部品の接続

注意

- ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピングねじ使用範囲以内に固定してください。(図 5-1)

- 本体を固定します。(図 4-3)
1) だるま穴のφ9穴(左右各 1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)をしっかりと締め付けます(①)。
2) だるま穴の座付ねじ(φ5.1×45)をしっかりと締め付けます(②)。

5. ダクトと排気用部品の接続

注意

- ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピングねじ使用範囲以内に固定してください。(図 5-1)

- 上方排気の場合
ダクトと排気口の接続部に漏風防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。(図 5-2)
- 後方排気の場合(別売の L 形ダクトを使用する場合)
1) 排気口を取り付けます。(図 5-3)
本体排気口取付位置に取り付けられている取付ねじ 2 本をはずし、L 形ダクトを本体上部の差込部に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、はずした取付ねじ 2 本で取り付けます。

5. ダクトと排気用部品の接続

注意

- ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピングねじ使用範囲以内に固定してください。(図 5-1)

- 上方排気の場合
ダクトと排気口の接続部に漏風防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。(図 5-2)
- 後方排気の場合(別売の L 形ダクトを使用する場合)
1) 排気口を取り付けます。(図 5-3)
本体排気口取付位置に取り付けられている取付ねじ 2 本をはずし、L 形ダクトを本体上部の差込部に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、はずした取付ねじ 2 本で取り付けます。

5. ダクトと排気用部品の接続

注意

- ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピングねじ使用範囲以内に固定してください。(図 5-1)

- 上方排気の場合
ダクトと排気口の接続部に漏風防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。(図 5-2)
- 後方排気の場合(別売の L 形ダクトを使用する場合)
1) 排気口を取り付けます。(図 5-3)
本体排気口取付位置に取り付けられている取付ねじ 2 本をはずし、L 形ダクトを本体上部の差込部に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、はずした取付ねじ 2 本で取り付けます。

6. 電気配線

警告

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをするおそれがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因となります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因となります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

- 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い

- 電源は専用のコンセント(2 極接地付差込接続器 15A、125V)およびブレーカーを設けてください。
- 「8. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
- コンセントは電源コードの長さを考慮し、関連法規に従って設置してください。
コンセントの設置は、右図の斜線範囲内に推奨となります(図 6-1)。
- 必ずアース工事(D 種接地工事)をしてください。

7. 整流板の取り付け

- オイルガードの固定テープを貼ります。(図 7-1)
- 保護用クッション材を貼ります。(図 7-2)
オイルガードの手前側左右のすきまに指をかけた、オイルガードを矢印方向に引いて、本体からはずし、保護用クッション材(2個)を貼ります。
※保護用クッション材を貼った後は、オイルガードをもとどりに取り付けてください。
- 整流板を取り付けます。(図 7-3)
1) 奥側左右の整流板引掛け部をフード引掛け部に確実に引っ掛けます(①)。
2) 整流板を両手で支えながら手前側を上を持ち上げ、左右のストッパーを押しながらロックします(②)。
取り付け後は整流板を上下に動かし、はずれないことを確認してください。

7. 整流板の取り付け

- オイルガードの固定テープを貼ります。(図 7-1)
- 保護用クッション材を貼ります。(図 7-2)
オイルガードの手前側左右のすきまに指をかけた、オイルガードを矢印方向に引いて、本体からはずし、保護用クッション材(2個)を貼ります。
※保護用クッション材を貼った後は、オイルガードをもとどりに取り付けてください。
- 整流板を取り付けます。(図 7-3)
1) 奥側左右の整流板引掛け部をフード引掛け部に確実に引っ掛けます(①)。
2) 整流板を両手で支えながら手前側を上を持ち上げ、左右のストッパーを押しながらロックします(②)。
取り付け後は整流板を上下に動かし、はずれないことを確認してください。

7. 整流板の取り付け

- オイルガードの固定テープを貼ります。(図 7-1)
- 保護用クッション材を貼ります。(図 7-2)
オイルガードの手前側左右のすきまに指をかけた、オイルガードを矢印方向に引いて、本体からはずし、保護用クッション材(2個)を貼ります。
※保護用クッション材を貼った後は、オイルガードをもとどりに取り付けてください。
- 整流板を取り付けます。(図 7-3)
1) 奥側左右の整流板引掛け部をフード引掛け部に確実に引っ掛けます(①)。
2) 整流板を両手で支えながら手前側を上を持ち上げ、左右のストッパーを押しながらロックします(②)。
取り付け後は整流板を上下に動かし、はずれないことを確認してください。

8. 試運転

注意

- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります

- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 必ず最終設置した状態で試運転してください。
- 整流板やディスクが正しく取り付けられていることを確認してください。
整流板が正しく取り付けられていないと、運転停止機能により運転ができません。ディスクを取り付けていないか、取り付けが不完全な状態で運転すると、ディスクが忘れお知らせ機能により、付け忘れをお知らせします。
整流板とディスクの取り付けについては取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気口から排気され、異音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
- 製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープをもとの状態に取り付けてください。
- 風量おまかせ運転(風量自動切替)機能を正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず現場設定をおこなってください。

9. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

(製造元) 富士工業株式会社
本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 番 9 号
TEL 042(768)3754 (営業部)

原寸大型紙 (寸法単位は mm)

※表面は取付説明書になっています。よくお読みになり正しく取り付けをおこなってください。

お願い

この型紙は湿気の影響で2~3mm 誤差が生ずることがあります。
寸法をお確かめの上ご使用ください。

